

パパと仕事の二刀流な 人



2025年4月から育児・介護休業法が変わり、当社の制度も見直しを行いました！

- ・子の看護等休暇：対象となる子の範囲が小学3年生修了まで延長
- ・残業免除：小学校就学前の子を養育する方まで対象が拡大
- ・柔軟な働き方：小学校就学前の子を養育する方は始業時刻等の変更や短時間勤務制度を選べます

- ・1歳6カ月未満の子を養育する方：月3回以上出社を条件に在宅勤務が可能になります。
- ・育児介護以外の社員の方：通院や役所・金融機関への手続き等、在宅勤務の必要が生じた時に上司と相談の上、利用できます。

子育て世代の在宅勤務利用率向上のため、小学3年修了までの育児中は、月1回以上の在宅勤務を推奨し、利用率70%以上を目指します。

仙台支店 Y.Iさん

Q3.復帰後、子育てと仕事を両立する工夫は？



家事全般や上の子の離乳食を作ったり、妻が下の子の育児に集中できる環境づくりを心がけていました。また、1時間半置き位で授乳があり、まとまった睡眠が取れないため、妻が日中昼寝できるよう、自分が日中お世話したりとかで、あつという間の育休期間でした。



妻が子供に集中できるように家事全般、沐浴やミルク作り、おむつ替えも分担していました。最初がっつり夜もやるつもりでしたが、妻から昼に活躍してほしいから夜は絶対寝てくれと言われ、昼頑張るようにしました。自分もあつという間に過ぎちゃったっていうぐらい大変な記憶しかないですね。

T.Nさん

悪かったことはありません。逆にもっと長く
取ればよかったなと後悔があるくらいです。
奥さんと相談して、一番短い期間で取得しま
しましたが、もう少し長く、6ヶ月ぐらい取っても
よかったなと感じています。



T.Nさんと同じで、悪かったことはありませんが半年ぐらい取っていてもよかったのかなって言うのは思いました。育休中日中もずっと子どもと一緒にいると、日々の成長を強く感じました。その大事な時期をきちんと見られたっていうのは大切な思い出になるし、見逃すのはもったいないと思います。



奥さんが遅くなるとか、用事がある時は早く子どもを迎えに行くなど、在宅やフレックスを活用しながら、メリハリつけて子どもとの時間を作ったり、夜中に家事をしてサポートしています。



夜は先に寝ていることが多いので、フレックス制度を活用し朝ごはんを一緒に食べるようにしています。出来る限り子どもとの時間をとっています。最近はできていませんが、毎朝洗濯と朝ごはんを作るようにしていました。

S.Nさん

育児もありますが、妻のサポートも大事だと思います。産後は神経質になっていたの、喧嘩が増えました。妻に寄り添い、こちらまで神経質にならず気遣ってあげてほしいと思います。子どもの成長を近くで見られるため、ぜひ育休をとってもらいたいです。



人員がマイナスになってしまうことに申し訳なさも感じていたのですが、職場に全力でサポートいただけたおかげで、安心して育休に臨めました。自分も完璧に準備ができたわけではないのですが、上司に相談しながら計画的に期間を決めたり、業務を棚卸して育休期間中の引継ぎを充実させたり、事前準備をしっかりと行うことも、育休を取得する上で大切なことのひとつだと思います。

02